

# 平成25年度中小企業金融実態調査結果概要

平成25年8月16日  
富山県商工会連合会

## I. 調査目的

県下商工会地区における小規模企業等の経営概況や金融に関する動向等を把握し、中小企業金融の円滑化に資するための基礎資料を得ることを目的として調査を実施した。

## II. 調査対象および方法

商工会地区の中小企業（特に小規模事業者）のうち、1,120企業を無作為抽出し、商工会の経営指導員の面接により調査を行った。

## III. 調査時期および実施期間

調査書記入時点	平成25年7月1日 現在
調査実施期間	平成25年7月2日～7月12日

## IV. 回答状況

調査対象企業数	1,120社
回答企業数	1,025社（回収率91.5%）

## V. 調査結果の概要

売上高については年間売上高の増加企業の割合は増加し、減少企業の割合は減少した。今後の売上高は増加を予想している企業の割合は高くなり、景況への先行き期待感は強い。本年10月～12月の資金繰りでは、変わらないとする企業が増加して、苦しくなると予想した企業の割合が減少した。苦しくなる原因は、「売上高予定額未達」や「利益予定額の未達」を挙げる割合が高く、「借入返済額が大きい」を苦しくなる原因と捉える割合はやや減少した。円安の影響では「悪い影響」が「良い影響」を大幅に上回った。

今後1年間に借入計画があるとする企業の割合は22.2%と前回調査対比で1.2ポイント減少している。設備資金は「工場・店舗等の補修・改修」「製造機器・ラインの増設」は増加し、事業活動維持に必要な借入を優先する姿勢が窺われる。

金融円滑化法終了後に「貸付条件の変更や新規融資」を申し込んだのは全体の6.0%で、審査については「借りやすくなった」「変わらない」「厳しくなったが変更や融資を受けられた」の合計は90.4%を占め、大きな変化はない。

経営改善計画策定支援制度については、「検討したい」「説明を受けたい」が9.4%を占めた。

項目別の回答は次の通りである。

今回の特徴点（前回24年7月調査時点との比較）

#### 1. 企業の営業の状況について

- (1) 年間売上高については、「増加した企業」の割合が、前回比2.1ポイント増加し、「減少した企業」の割合は2.6ポイント減少した。採算状況については、黒字企業が0.4ポイント増加し、収支とんとんが2.9ポイント増加した一方で赤字企業は3.3ポイント減少した。
- (2) 今後の売上高予想については、減少すると回答した割合は13.8ポイント減少の53.0%で、業種別では小売業、飲食・宿泊業、サービス業、卸売業の順で減少する割合が高くなっている。増加すると回答した割合は45.5%となり、前回比14ポイント増加した。
- (3) ここ1年間に、元請等との取引条件の変更状況は、21.5%の企業が元請等との取引条件に変化があり、業種では建設業、製造業、サービス業の順で多く見られた。
- (4) 10～12月の資金繰り予想では、「大変苦しくなる」と、「苦しくなる」の合計は5.8ポイント減少し31.8%となった。楽になるは1.2ポイント増加している。苦しくなる業種では、小売業、製造業、運輸業の順で高い。苦しくなる要因としての複数回答では、「売上高予定額未達」と「利益が予定に達しない」の割合が圧倒的に高く、前回調査に続き共に50%を超えている。「借入返済額が大きい」は23.0%で2.4ポイント減少した。
- (5) 円安の影響では「悪い影響」が18.8%で「良い影響」の2.2%を大幅に上回った。「悪い影響」の業種別では運輸業、卸売業の割合が高かった。

#### 2. 金融機関との取引及び借入状況について

- (1) 最近6ヶ月間の借入申し込み状況は、「した」が前回調査同水準の41.0%となった。また6月末の借入額では、300万円未満で2.4ポイント増加の20.7%となったが、300万円以上～1億円以上で6.1ポイント減少の59.2%となった。また借入なしの企業は2.7ポイント増加し、全体の17.3%となった。  
現在の借入金利については、「借入金利2%未満」の層は、59.0%に達した。3%超は0.8ポイント減少し、借入金利は引き続き低下傾向にある。  
借入に対する満足度については、満足と回答した企業の割合は91.1%であり、前回対比で1.3ポイント増加し、不満・謝絶の回答は1.5ポイント減少の6.6%だった。
- (2) 預金は、前回調査に比べ増加した企業が5.5ポイント増加の37.7%、一方で減少した企業は5.8ポイント減少の58.4%だった。

- (3) 「貸し渋り」の有無は、「ある」が4.4ポイント減少し3年連続して低下した。「貸し渋り」の複数回答の内容は「金額査定減」が前回調査比で2.3ポイント増加し60.5%に達している。次いで「保証協会の付保」「追加融資不可」「金利の上乗せ」「審査期間の長期化、資料の増加」の順に多い。
- (4) 借りにくい、借りられない理由では、「業績が思わしくない」は減少したが、「借入残高が多い」を含めた2項目が30%を超えて理由の主な要因となっている。
- (5) 借入返済の条件変更に対しては、「希望する」企業が4.0ポイント減少している。希望する条件変更は「返済期間の延長」「元金返済の一時据置(猶予)」の順に多い。条件変更の難易度では、「容易である」と「交渉次第で何とかなる」で7.3%減少の64.9%となる。「難しい」は5.2ポイント増加の27.4%で、警戒感が高まっている。
- (6) 今後の借入計画(1年間)では、「ある」と回答した企業は1.2ポイント減少し、「ない」と回答した企業は1.6ポイント増加した。うち設備資金では、「工場・店舗等の補修・改修」「製造機器・ランンの増設」が増加し、生産(営業)活動維持に必要な借入を計画している。
- (7) 借入を考える場合の懸念材料においては、「業況の先行見通し難」「借入後の返済力」の2項目は引続き高い懸念項目となっている。
- (8) 経営が著しく悪化した場合の相談先に47.8%の企業が「商工会」を挙げており、次に25.1%が「民間の金融機関」、13.8%が「税理士」の順となっている。

### 3. 融資制度について

- (1) 融資制度の過去1年以内の利用状況は、前回調査と比べると「利用がある」は4.4ポイント減少し、「利用がない」は4.5ポイント増加した。  
融資制度について、申込手続きや審査の簡素化、金利の軽減、融資期間の拡充を求める等の意見が前回同様に寄せられている。
- (2) 国や県、市町村の融資制度は、「経営の役に立っている」と回答した企業は97.5%を占めた。一方で「利用しなかった理由」として、「利用する必要がなかった」が80.2%で最も高い割合で回答している。
- (3) マル経融資の制度改正のメリットについては、「返済期間の延長」「融資限度額の増大」とも減少し、定着化が窺える。

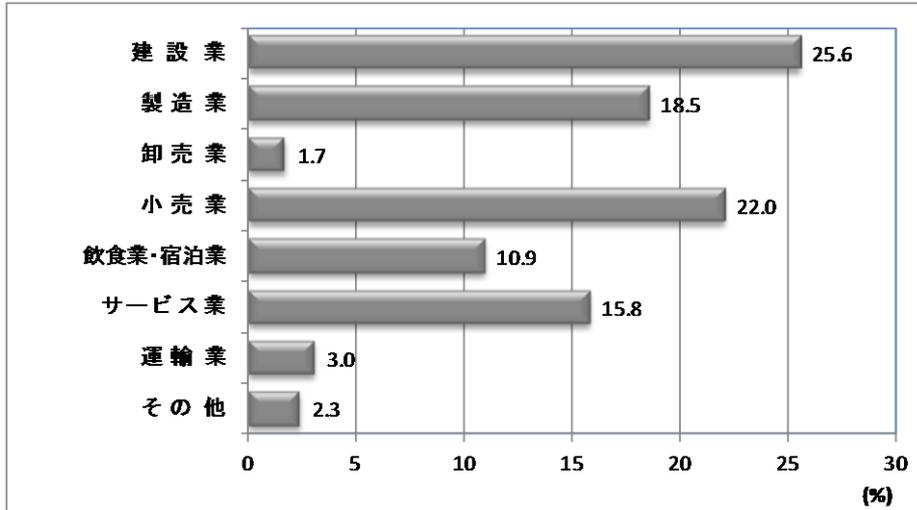
### 4. 最近の諸制度について

- (1) 信用保証協会の借入利用は前回比1.9ポイント減少の30.1%だった。「円滑に融資が受けられた」は5.6ポイント増加の75.1%で、「少し難しかった」「円滑でなく難しかった」は6.1ポイント減少の22.6%だった。

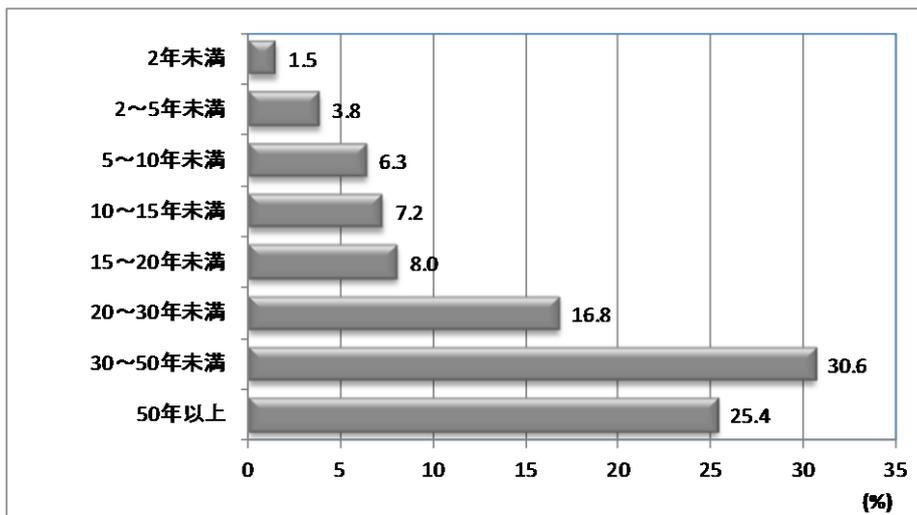
- (2) 金融機関の融資態度の変化については、「あまり変化はなかった」は7.8ポイント増加して63.1%、「従来よりも提出書類が増え、融資実行まで時間を要するようになった」は6.5ポイント減少して17.5%、「金融機関の審査が厳しくなった」は2.5ポイント減少し12.0%と回答している。金融機関の融資態度に変化があったとした回答が「金利が高くなった」を含めて前回調査より8.2ポイント減少した。
- (3) ビジネス創造支援事業の専門家派遣では「相談したい」が0.4ポイント増加の6.1%となったが、「関心はない」も2.3ポイント増加の78.8%となった。
- (4) 金融円滑化法終了後に「貸付条件の変更や新規融資」を申し込んだのは全体の6.0%だったが、審査については「借りやすくなった」「変わらない」「厳しくなったが変更や融資を受けられた」の合計は90.4%を占めた。
- (5) 経営改善計画の策定支援制度について、「検討したい」「説明を受けたい」が9.4%を占め、ニーズの高さが窺える。

## 1 回答企業の概要

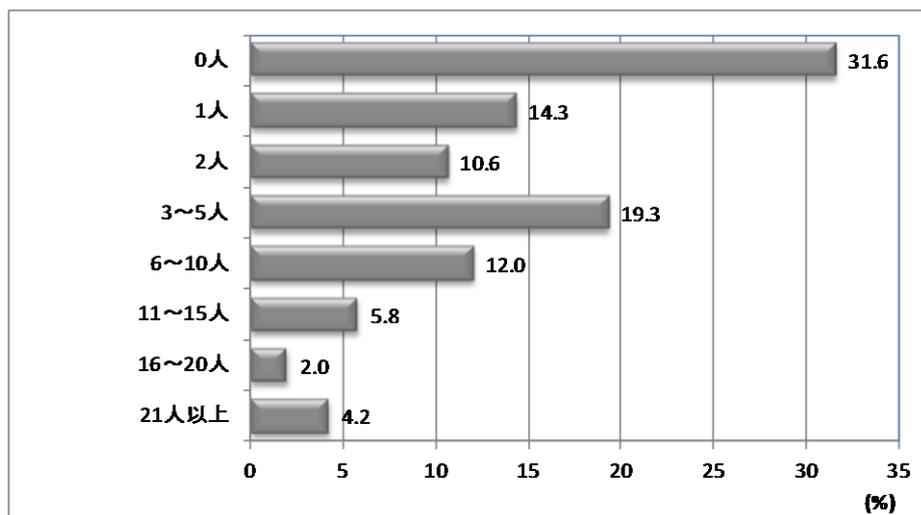
### (1) 業種



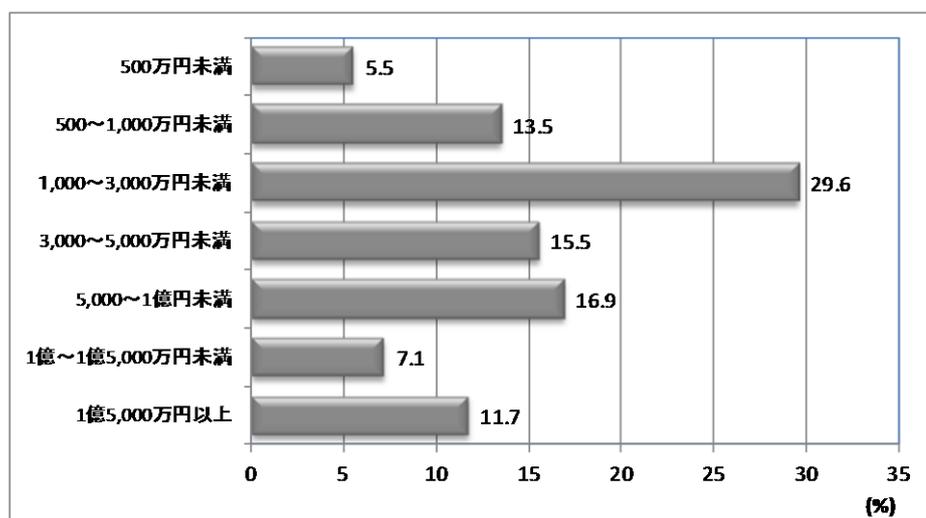
### (2) 創業してから何年



### (3) 常用従業員数



### (4) 年間売上高

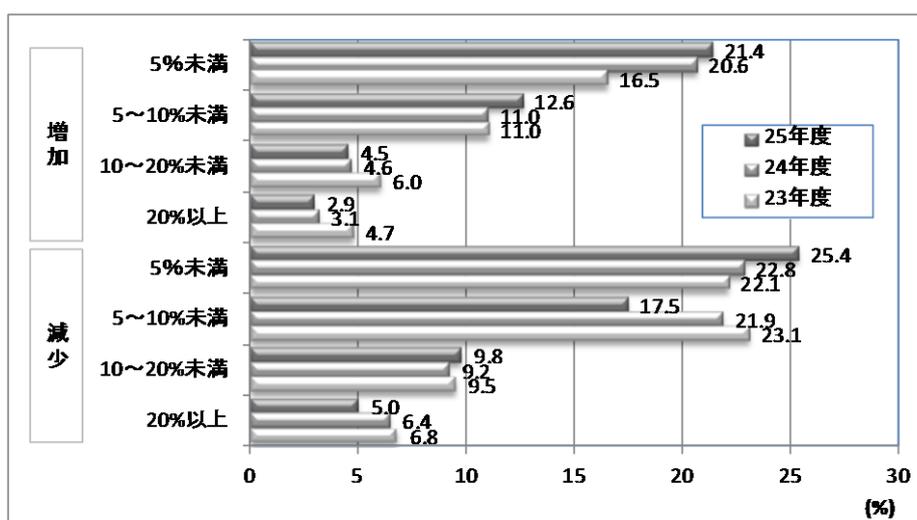


## 2 営業の状況

### (1) 年間売上高の増減率（対前年同期比）

年間売上高の増加企業は、全体で41.4%となり前回調査より2.1ポイント増加した。これを業種別に見ると、建設業で55.4%、運輸業で54.8%の順で増加と回答。さらに規模別では、16～20人で60%超と回答。

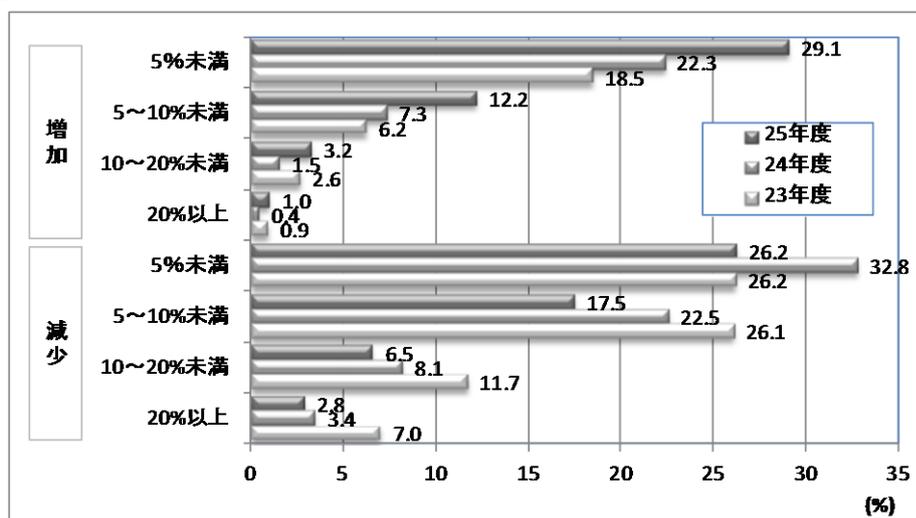
上減少は全体で57.7%となり前回調査に比べ2.6ポイント減少した。業種別にみると、小売業、サービス、製造業の順で減少率が高い。従業員規模では、0人、1人の小規模で減少率が高くなっている。



### (2) 今後の売上高予想

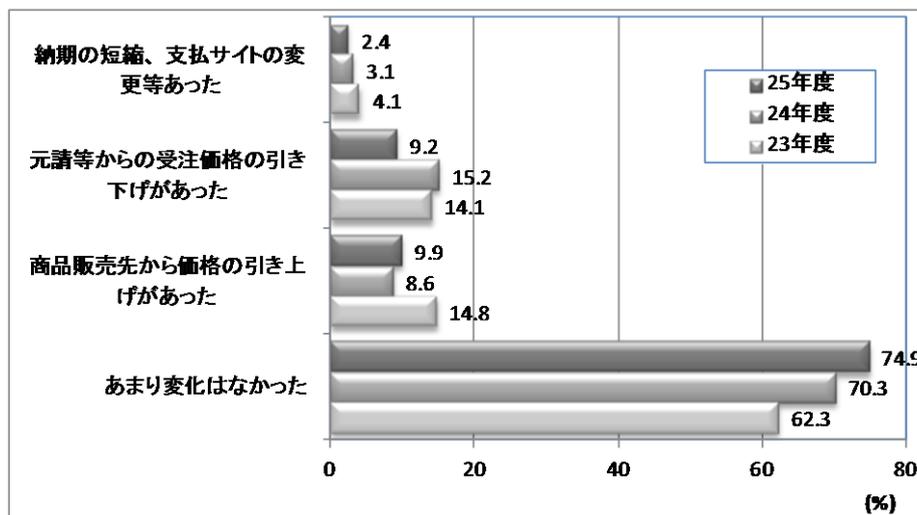
今後の景気の先行きを踏まえた売上高予想を聞いた質問に対して、減少すると回答した割合は全体の53.0%を占めたが前回は13.8%低下した。

業種別に見ると、小売業で78.3%、飲食・宿泊業で57.2%、サービス業で53.7%、さらに卸売業、製造業の順で減少すると回答している。売上高が増加すると回答した割合は全体の45.5%で前回比14ポイント増加した。これを業種別に見ると建設業で64.9%、規模別では、21人以上で67.4%と増加を予想している。



### (3) 取引条件の変更状況

ここ1年間の商品販売先、工事元請先、製造発注元等との取引条件の変更状況では、74.9%があまり変化はなかったと回答。一方で21.5%の企業がなんらかの取引条件の変更を強いられていると回答し、前回比較では5.4ポイント減少した。業種別では建設業、製造業、サービス業の順で高かった。



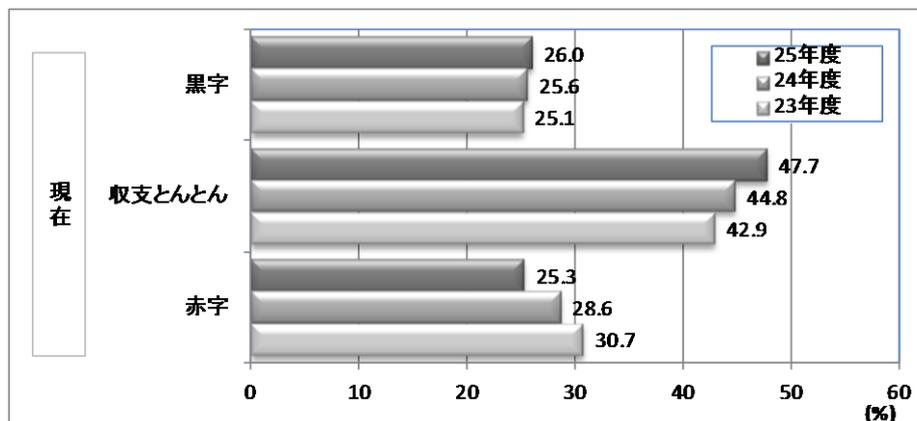
### (4) 採算の状況

#### ア、現在の採算状況

黒字と回答した割合は26.0%と前回から0.4ポイント増加した。赤字と回答した割合は25.3%と前回から3.3ポイント減少し、収支とんとは前回より2.9ポイント増加した。

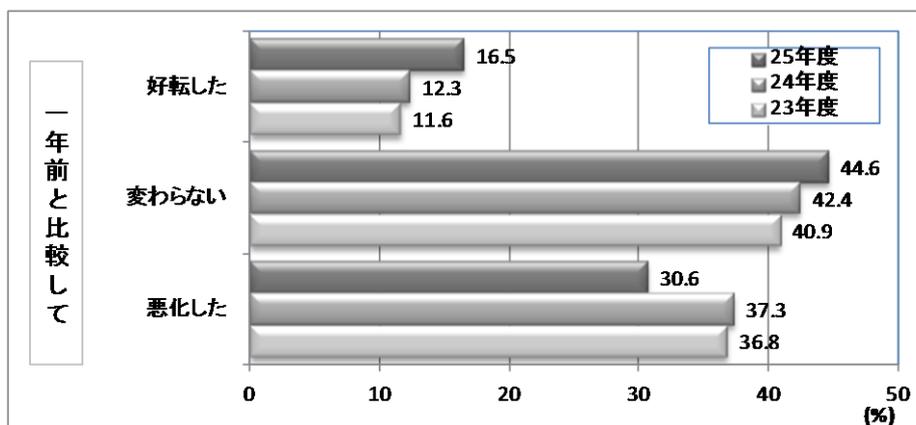
黒字企業を業種別にみると建設業で高く、赤字企業では運輸業、小売業、卸売業の順になっている。

また従業員別での黒字企業は、16~20人、11~15人、21人以上の順で比率が高く、従業員の多い規模で黒字企業の割合が高い。



## イ、採算状況（対前回比較）

採算状況を前回と比較すると、「好転した」が4.2ポイント増加した。「悪化した」が6.7ポイント減少した。変わらないは2.2ポイント増加した。業種別では、建設業、製造業の「好転した」比率が高くなっている。

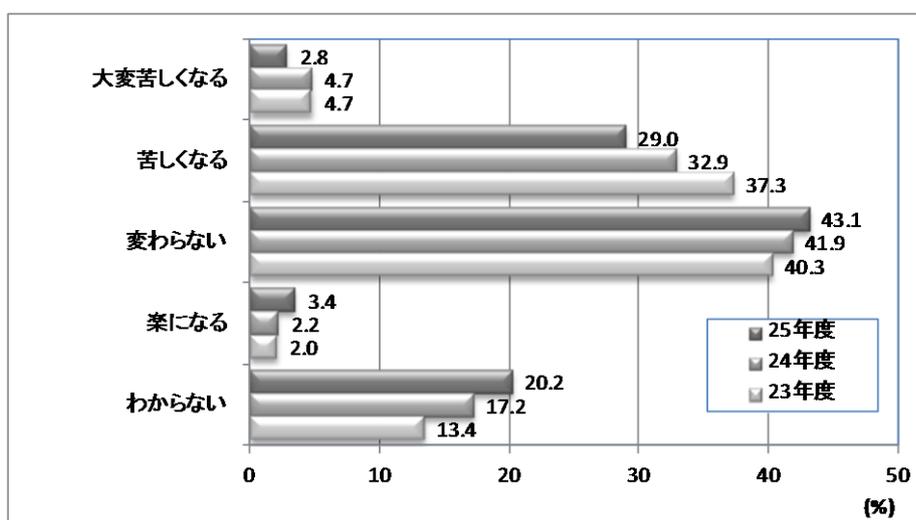


## (5) 資金繰り状況

### ア、今年10～12月の資金繰り予想

「大変苦しくなる」と「苦しくなる」の合計では、前回より5.8ポイント減少し31.8%となる。「変わらない」が1.2ポイント増加して43.1%。「楽になる」は前回より1.2ポイント増加した。資金繰りが悪化すると予想する企業の割合が減り、わからないと回答する割合が3.0ポイント増加した。

「苦しくなる」を業種別でみると、小売業、製造業、運輸業の順で高い。

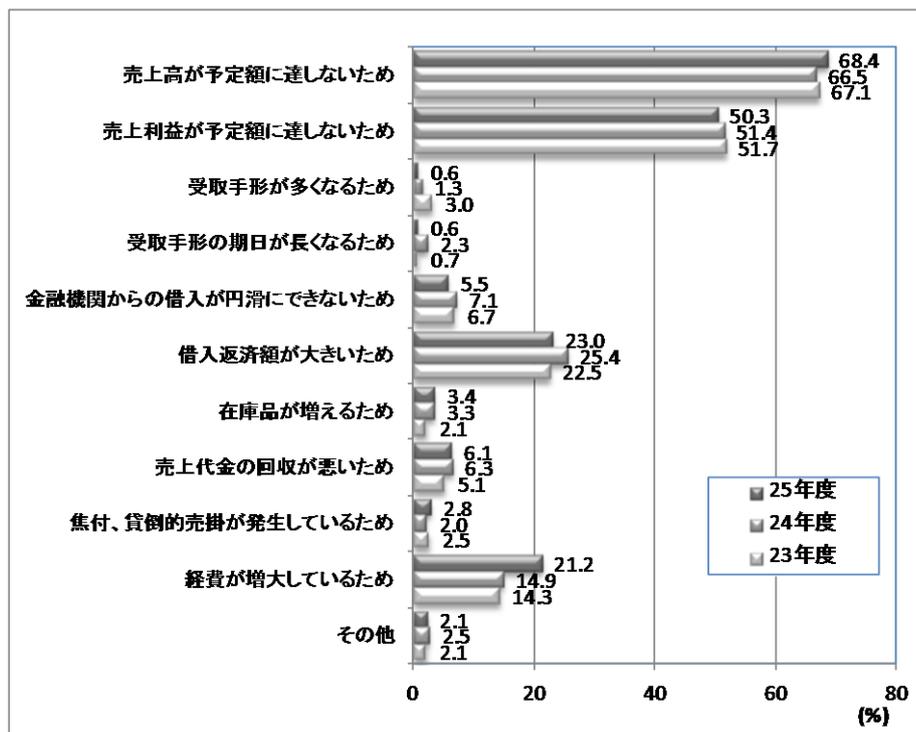


### イ、資金繰りが苦しくなる原因（2つ以内で回答）

「苦しくなる」理由は、「売上が予定額に達しない」と「売上利益が予定額に達しない」の割合が圧倒的に高く、前年に続きともに50%を超えている。

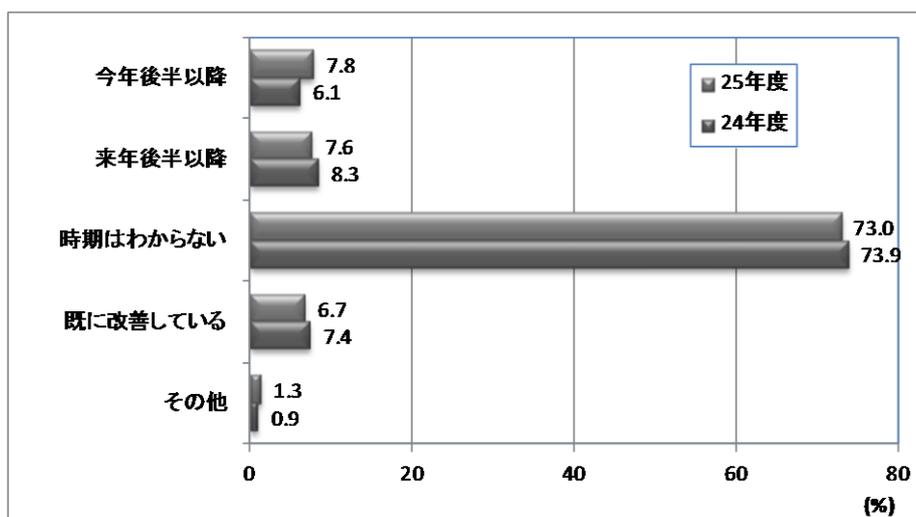
「借入返済額大きい」は23.0%で2.4ポイント減少した。

「経費の増大」が21.2%で6.3ポイント増加した。その他の原因では、燃料高や仕入価格の上昇があげられている。



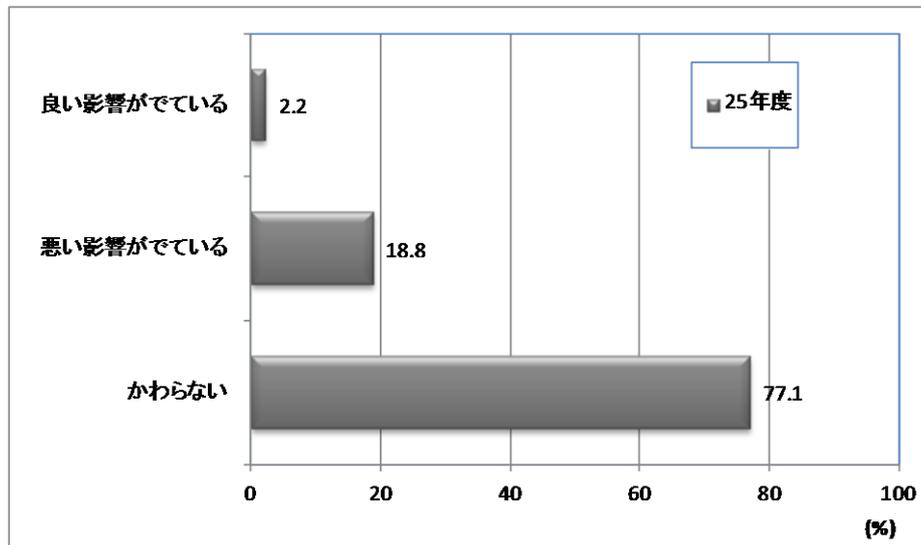
### ウ、資金繰りが改善する時期

改善する時期は、「時期がわからない」が73.0%を占めた。業種別では小売業、飲食・宿泊業、卸売業の順で改善する時期がわからないと回答している。



## エ、円高の影響について

「悪い影響」が18.8%で「良い影響」の2.2%を大幅に上回った。業種別では、良い影響は製造業、悪い影響は運輸業、卸売業が高かった。



円安の具体的影響項目では、次の項目が多かった。

### <悪い影響>

- ・仕入・材料高騰（多数）。
- ・燃料高（多数）。
- ・海外（輸入）商品・材料値上げ（多数）。
- ・石油製品値上げ（多数）。
- ・小麦粉、大豆、食材高騰。
- ・運賃、輸入木材、ブランド品、金物、紙製品の値上げ。
- ・値上がり分の赤字の増大、価格上昇を転嫁できない。
- ・受注単価、売上単価の減少。
- ・電子部品工場のリストラの影響がある。
- ・零細企業には非常に悪い環境。

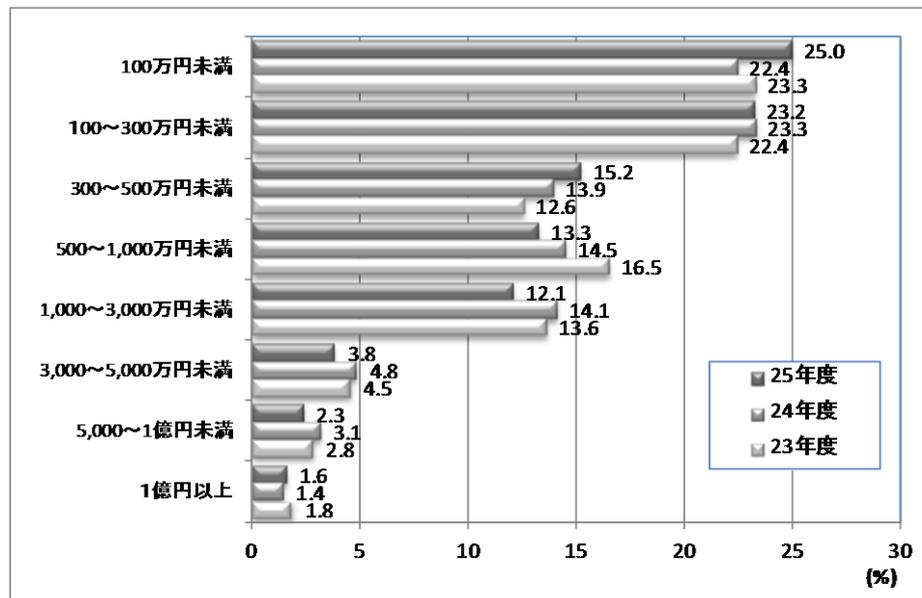
### <良い影響>

- ・輸出、海外向け受注が好調。
- ・自動車産業の活性化。
- ・国内ものづくりの増加。
- ・外国人旅行者、宿泊者の増加。
- ・景気に期待感が出てきた。

### 3 金融機関との取引状況 等

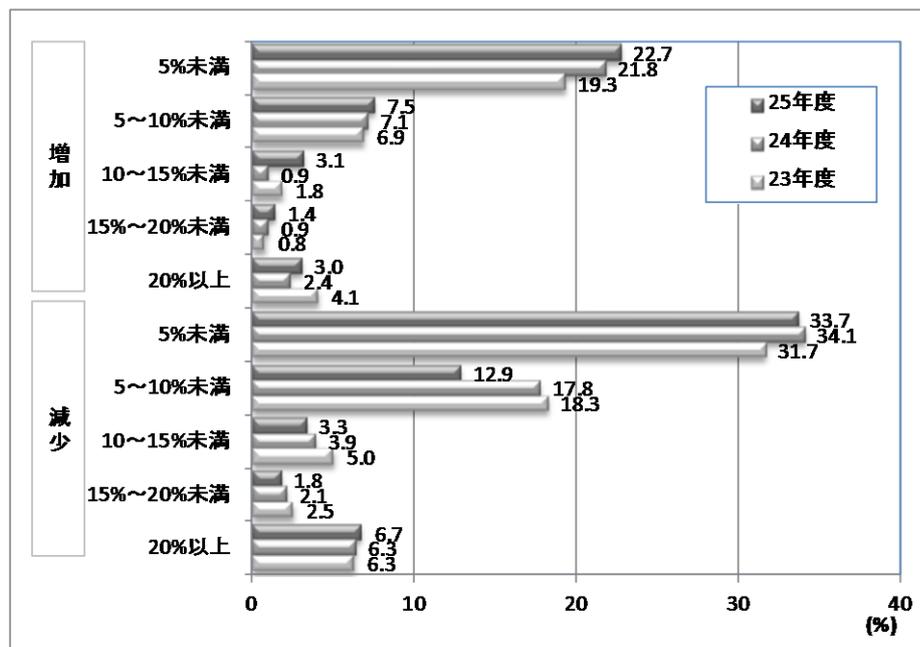
#### (1) 本年6月末預金高はどれくらいありましたか

前年と比較すると、500万円未満の割合が3.8ポイント増加し、500万円超が4.8ポイント減少している。



#### (2) 昨年の6月と比べ預金は増加しましたか、それとも減少しましたか。

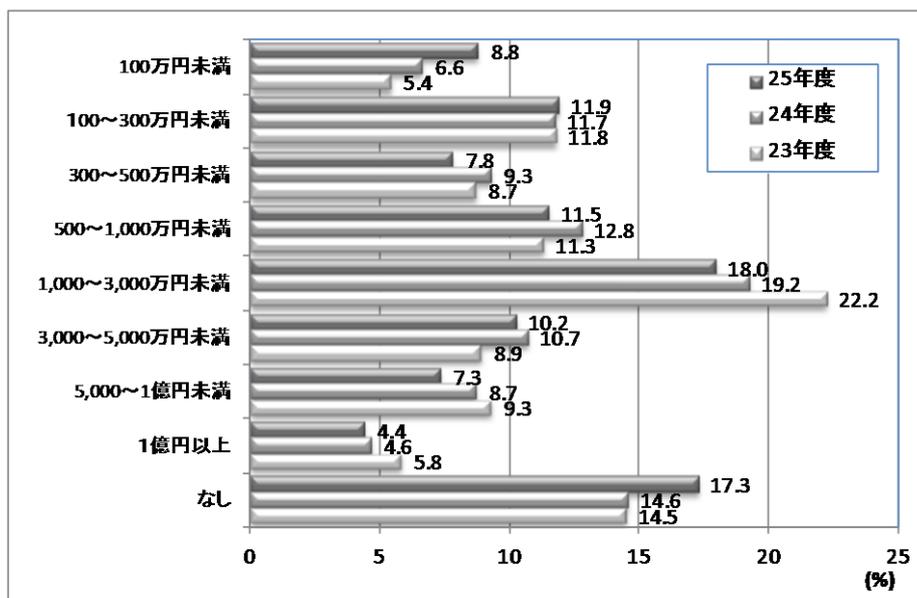
「増加した」と回答した企業の割合は5.5ポイント増加し37.7%。「減少した」と回答した企業は5.8ポイント減少し58.4%。減少した業種では、小売業、飲食・宿泊業、卸売業の順で高い。



### (3) 今年6月末の借入額

300万円未満の借入は2.4ポイント増加の20.7%となり、300万円以上～1億円以上で6.1ポイント減少の59.2%で、借入金額が多額な層が減少している。

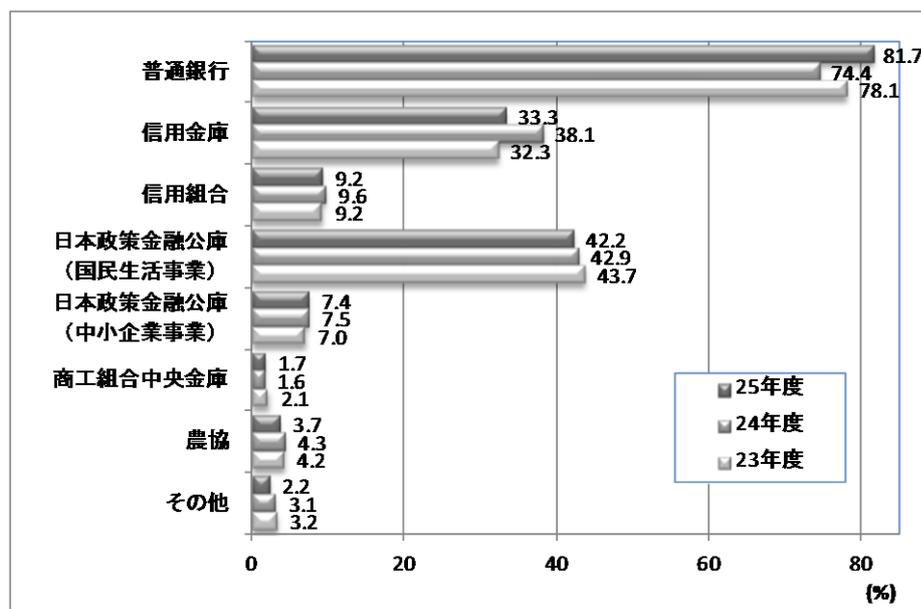
借入なしの企業は2.7ポイント増加し17.3%になり、業種別では卸売業の23.5%、サービス業の22.8%が無借金と回答した。



### (4) 現在の借入先（多い順に3つ回答）

前回調査と比べ、普通銀行が7.3ポイント増加し81.7%、日本政策金融公庫（国民生活事業）が0.7ポイント減少し42.2%。信用金庫が4.8ポイント、信用組が0.4ポイントそれぞれ減少している。

その他の借入先には、経営者、役員、個人等があった。

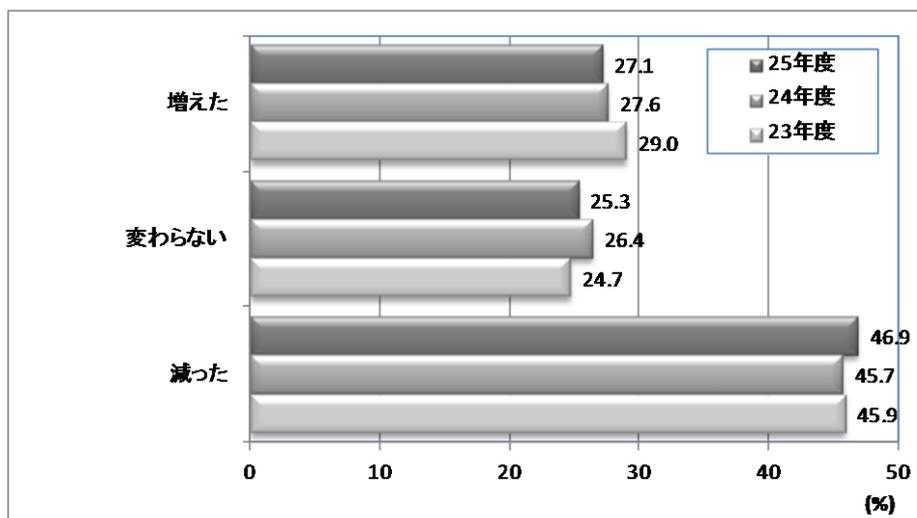


(5) 借入額は(昨年12月頃に比べて)

「増えた」27.1%、「減った」46.9%、「変わらない」25.3%となり、「増えた」が0.5ポイント減少、「減った」が1.2ポイント増加した。「変わらない」は1.1ポイント減少した。

「増えた」企業の割合は、業種では、卸売業、製造業、建設業の順になっている。

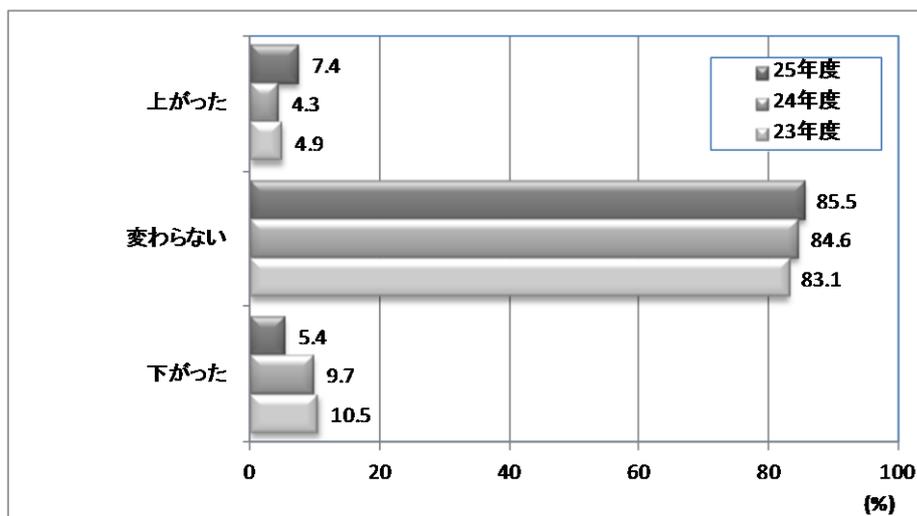
「減った」企業の割合は、サービス、業飲食・宿泊業、運輸業の順になっている。



(6) 金利は(昨年12月頃に比べて)

「上がった」割合が3.1ポイント増加し、「下がった」は4.3ポイント減少した。また、「変わらない」が0.9ポイント増加し85.5%となる。

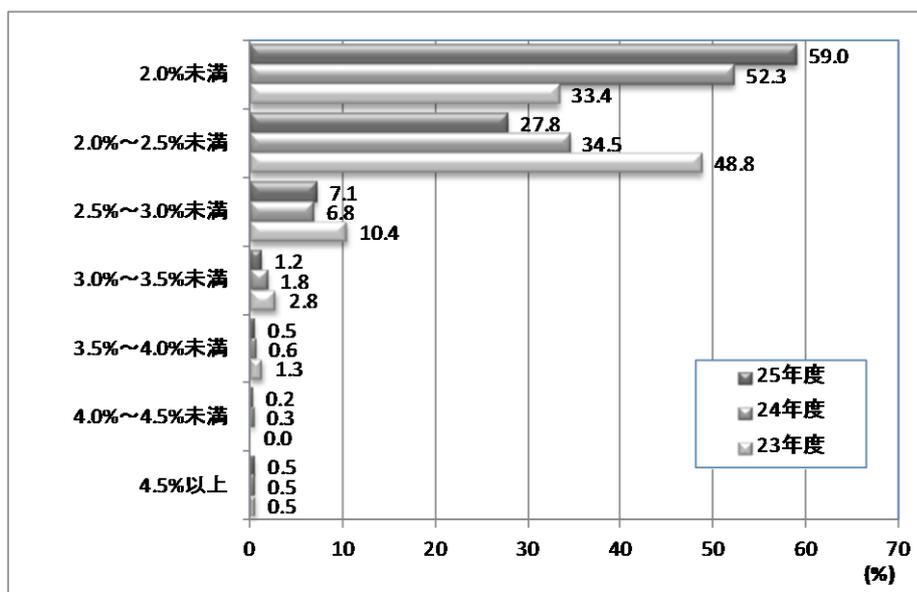
業種では、「上がった」企業の割合は卸売業、運輸業が10%を超えた。



### (7) 現在の借入金利（平均）

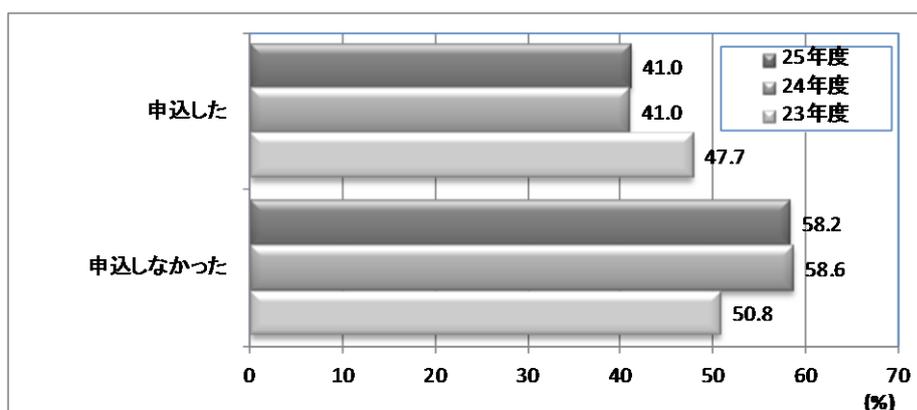
平均金利は、「1.0%未満」3.7%、「1～1.5%未満」13.8%、「1.5%～2%未満」41.5%。回答企業の59.0%が現在の借入金利2%未満で資金調達している。

階層別では、3.0%以上の借入金利割合が前回比0.8ポイント減少し2.4%へ低下した。



### (8) 最近6ヶ月間の借入申込（借入申込実績）

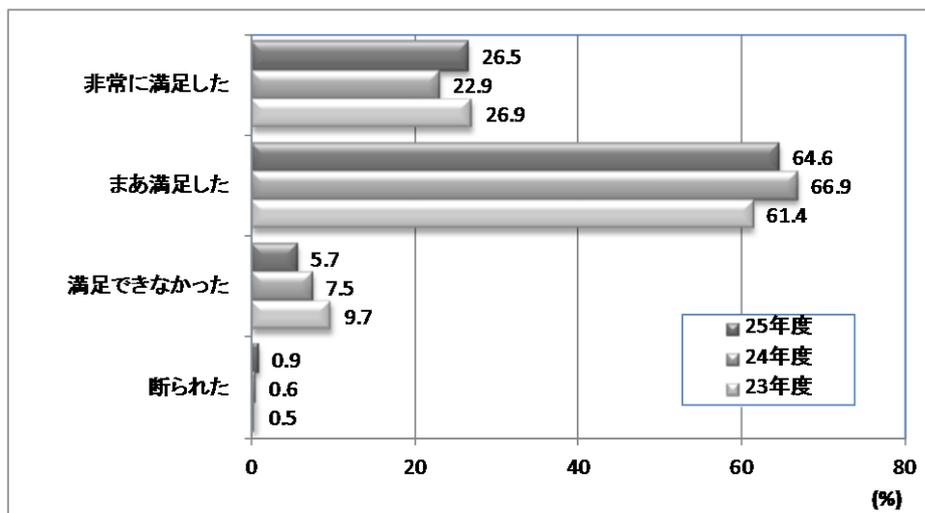
「申込した」割合は前回同水準の41.0%だった。業種別では製造業、建設業、卸売業の順で40%以上の割合で借入申込をしたと回答。「申込しなかった」は0.4ポイント減少し、業種では運輸業、サービス業、飲食・宿泊業、小売業の順で60%以上が借入申込をしなかったと回答。



### (9) 借入の満足度

「非常に満足」、「まあ満足」合計で91.1%で1.3ポイント増加。「満足できなかった」は1.8ポイント減少し、22年度以降4年連続して低下した。

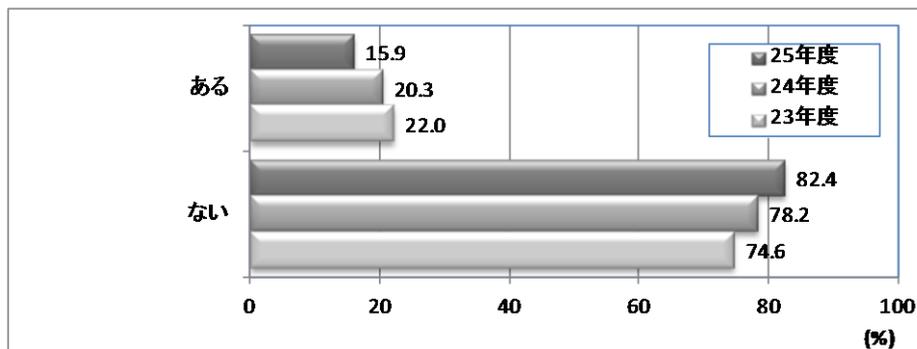
「非常に満足」「まあ満足」と回答した業種では、運輸業、飲食・宿泊業、卸売業の順で割合が高く、「不満」は製造業が10%を超えた。



### (10) 「貸し渋り」の有無

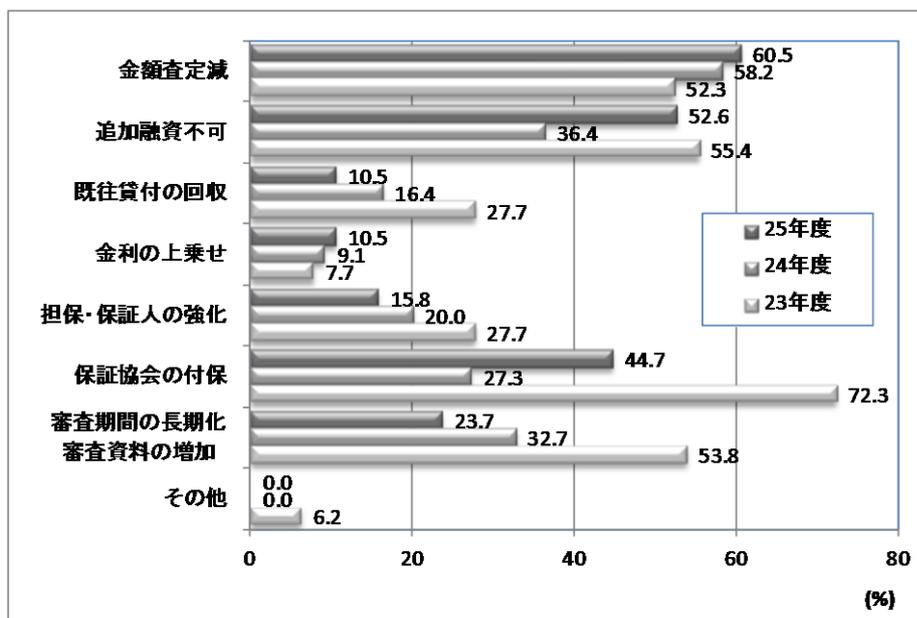
「ある」が前回より4.4ポイント減少し、「ない」は4.2ポイント増加した。

「ある」を業種別で見ると、運輸業、製造業の順で割合が高い。



(11) 「貸し渋り」の内容 (3つの複数回答)

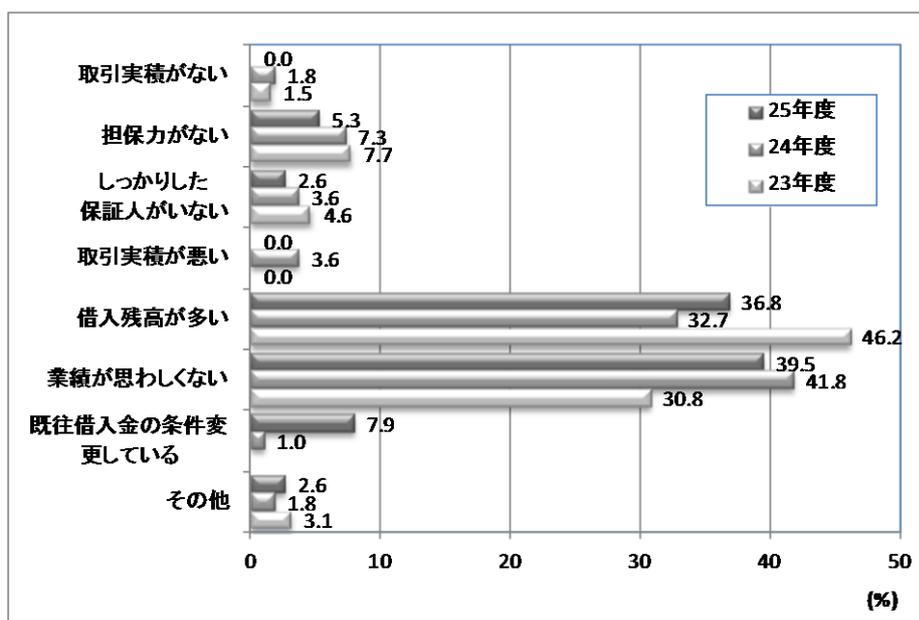
「貸し渋り」の内容をみると「金額査定減」が2.3ポイント増加し60.5%。「保証協会の付保」は17.4ポイント、「追加融資不可」は16.2ポイント、「金利の上乗せ」は1.4ポイント増加、「審査期間の長期化、資料の増加」は9ポイント、「既往貸付の回収」は5.9ポイント、「担保・保証人の強化」は4.2ポイント減少した。



(12) 借りにくい、借りられない理由 (回答数構成比)

「業績が思わしくない」は2.3ポイント減少したが、「借入残高が多い」を含めた2項目の割合がそれぞれ5年連続して30%を超え主要な要因と捉えている。

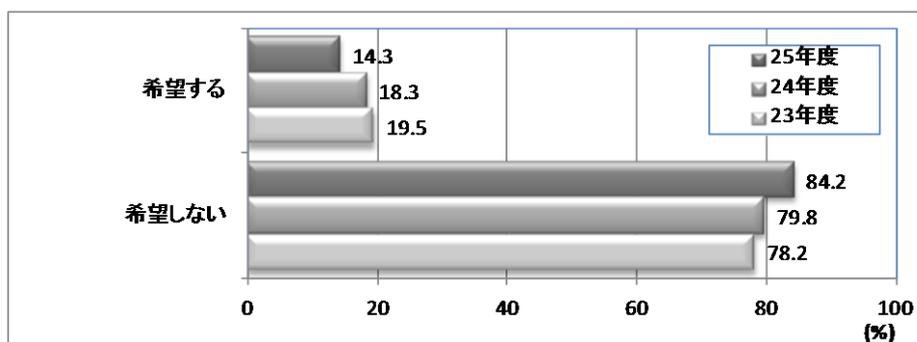
その他の理由では、売上高の減少、営業環境の悪化などの意見があった。



### (13) 借入返済の条件変更（希望の有無）

条件変更を「希望する」企業の割合が、前回調査と比べ4.0ポイント減少し、「希望しない」は、4.4ポイント増加の84.2%となった。

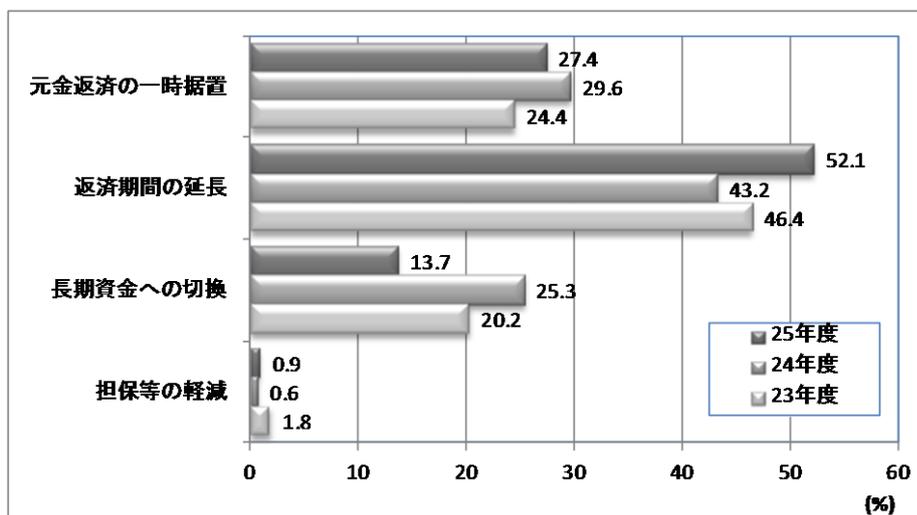
条件変更を「希望する」業種では、製造業、小売業、運輸業、の順で割合が高い。



### (14) 希望する条件変更

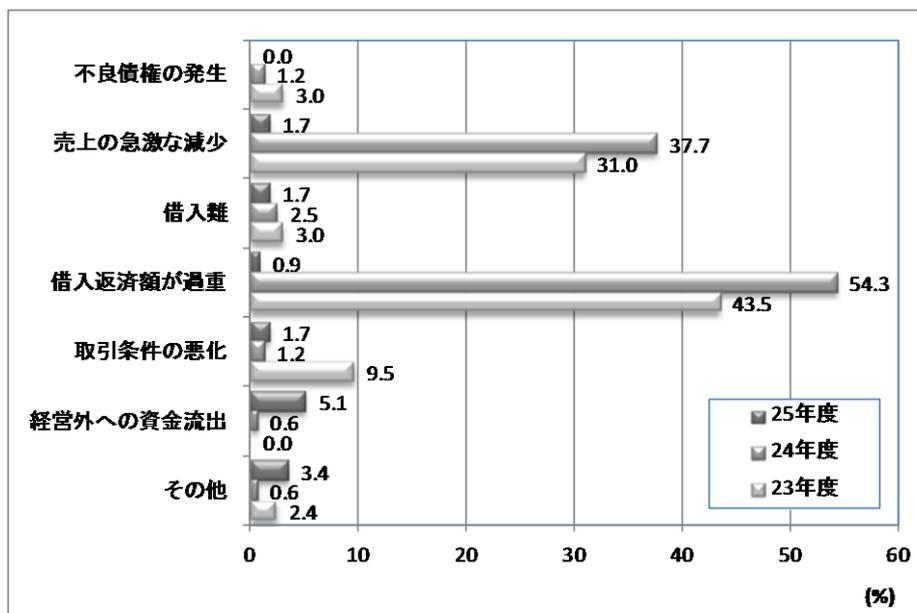
「返済期間の延長」は8.9ポイント増加の52.1%、「元金返済の一時据置（猶予）」は2.2ポイント減少したが27.4%と高水準である。「長期資金への切替」は11.6ポイント減少した。

「返済期間の延長」を希望する業種では、運輸業、建設業、飲食・宿泊業の順に多い。



### (15) 条件変更を希望する理由

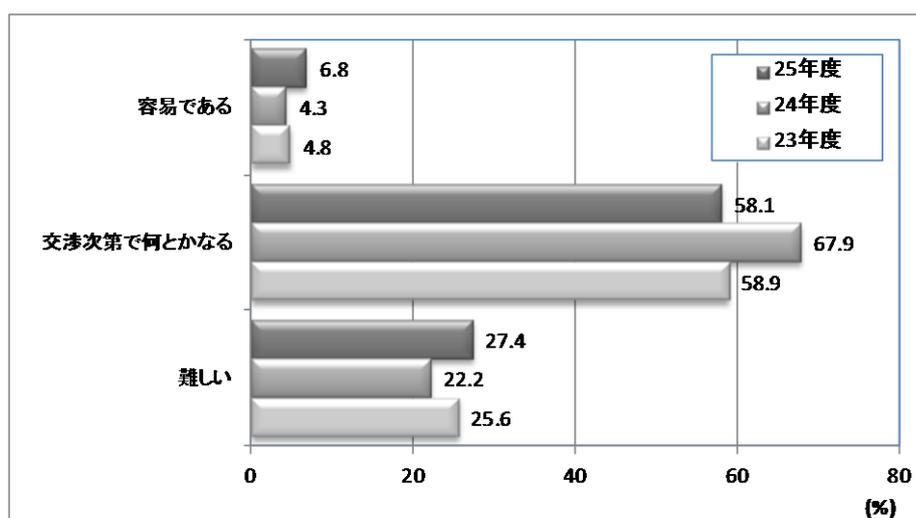
前年は「借入返済額が過重」と「売上の急激な減少」が条件変更を希望する2大原因だったが、急減した。85.5%が未回答となっている。



### (16) 条件変更の難易度

前回調査と比べ、「容易である」と「交渉次第で何とかなる」の合計は7.3ポイント減少の64.9%となる。「難しい」は5.2ポイント増加し、21年度以降4年連続減少していたが、反転し警戒感が高まっている。

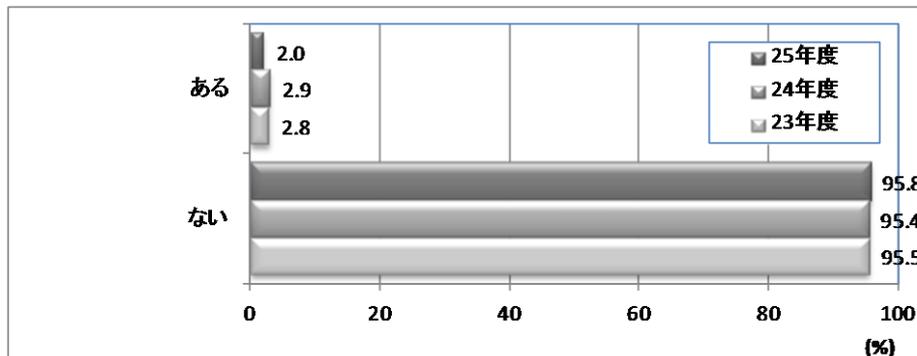
難しい理由については、金利を高くされるや、過去に条件変更をした等の意見があった。



(17) 金融機関からの借入金返還要求の有無

「ある」が2.0%で、前回と比べ0.9ポイント減少している。

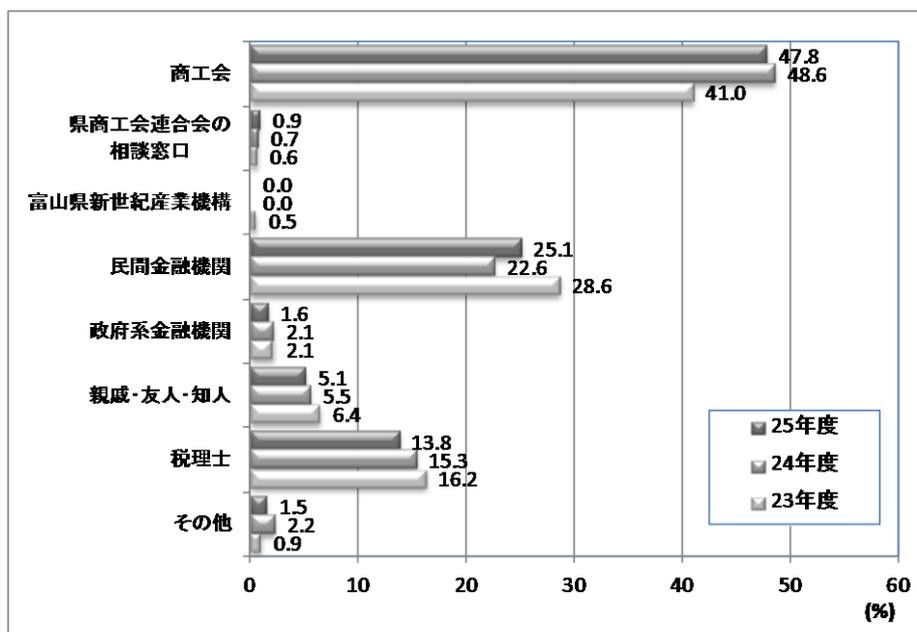
「ない」は95.8%と前回と比べ0.4ポイント増加している



(18) 経営が著しく悪化した場合の相談先

先行きに問題が生じたとき、相談に行くところでは商工会が47.8%で前回比0.8ポイント減少。次に民間金融機関が25.1%で前回比2.5ポイント増加した。

21年調査から相談先に「税理士」を加えたが、前回比1.5ポイント減り13.8%となる。その他の相談先には、経営コンサルタントや同業者等があった。



#### 4 借入計画 等

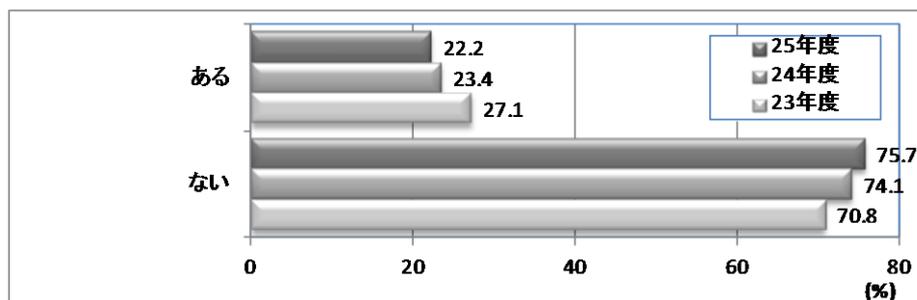
##### (1) 今後の借入計画（1年間）

「借入計画がある」は前回と比べ、1.2ポイント減少している。

「ある」を業種別にみると、製造業が30%を超えた。

従業員規模別では6～10、11～15人、21人以上、16～20人と規模の大きいクラスが30%を超えている。

「借入計画がない」は業種別では、小売業、飲食・宿泊業が80%の割合を超え、従業員規模別では、0人、1人、2人の小規模企業で80%を超えている。



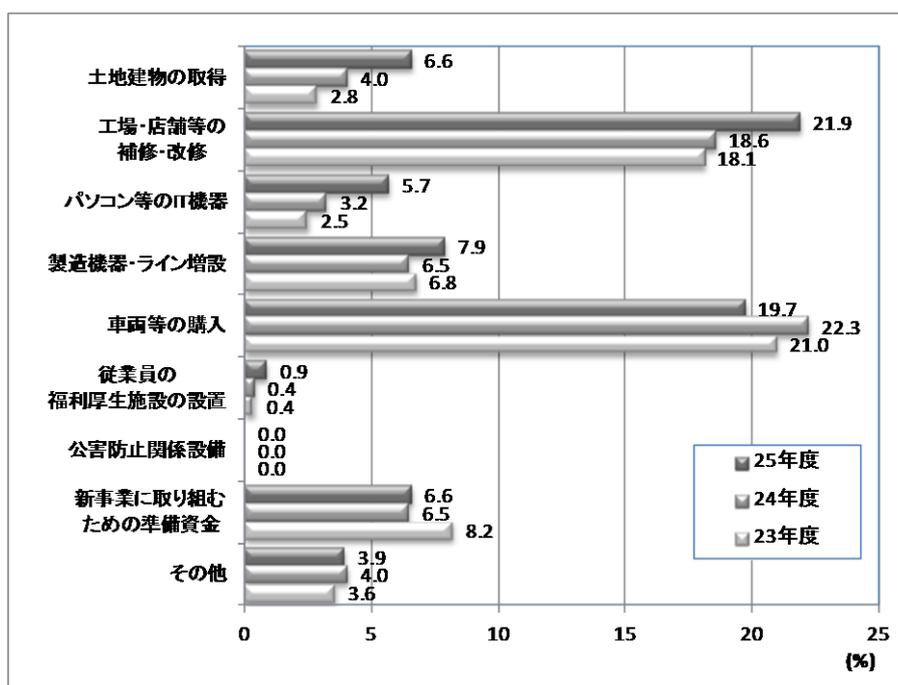
(2) 借入計画がある場合の資金使途（未記入除外、回答数構成比）

「設備資金」の資金使途では、前回調査に比べ「工場・店舗等の補修・改修」「製造機器・ラインの増設」「土地建物の取得」「パソコン等の IT 機器」が増加し、「車両等の購入」は減少している。

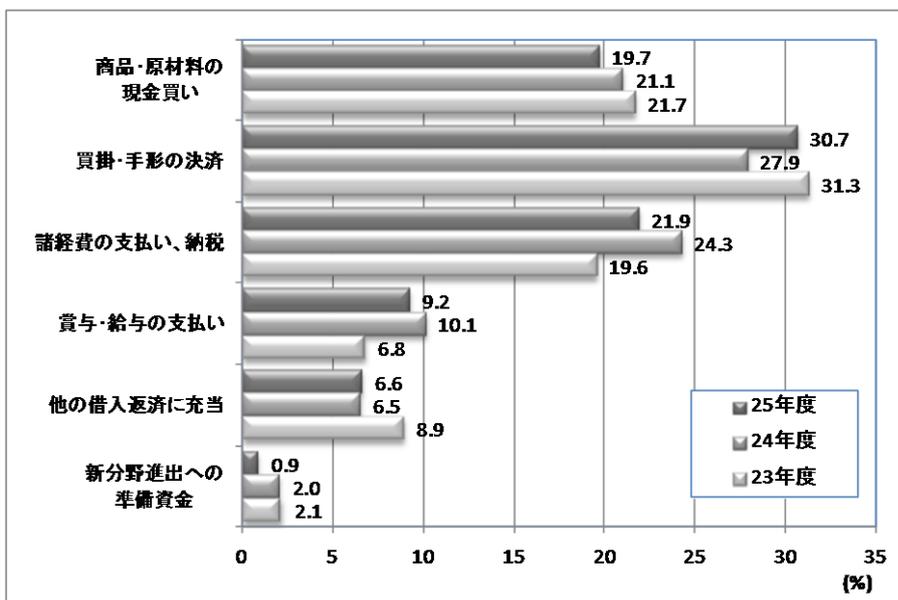
21年度に項目を追加した「新事業に取り組むための設備資金」は、6.6%で前回調査比0.1ポイント増加となった。

一方「運転資金」では「買掛金・手形の決済」が増加し、「商品・原材料の現金買い」「諸経費の支払い・納税」「賞与・給与の支払い」は減少した。

【設備資金】

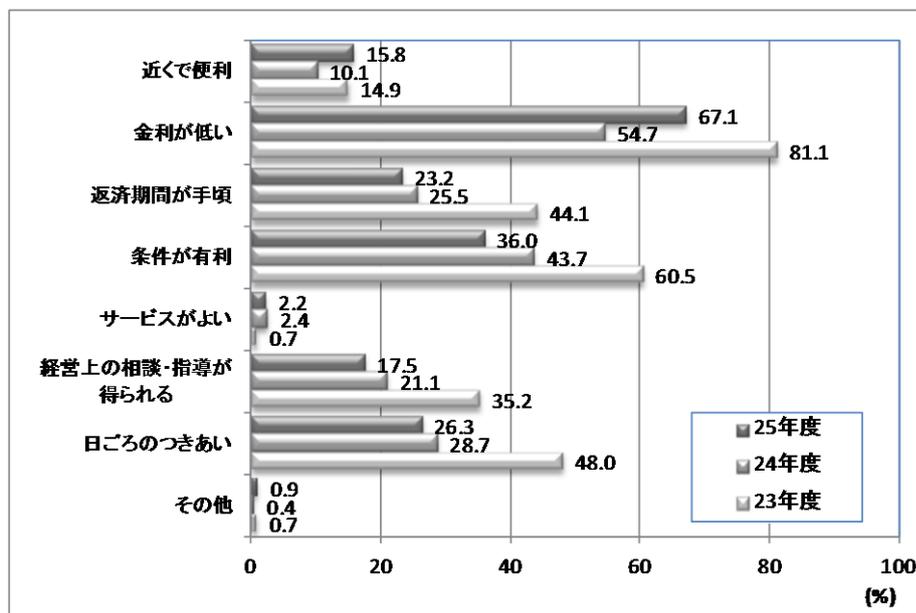


【運転資金】



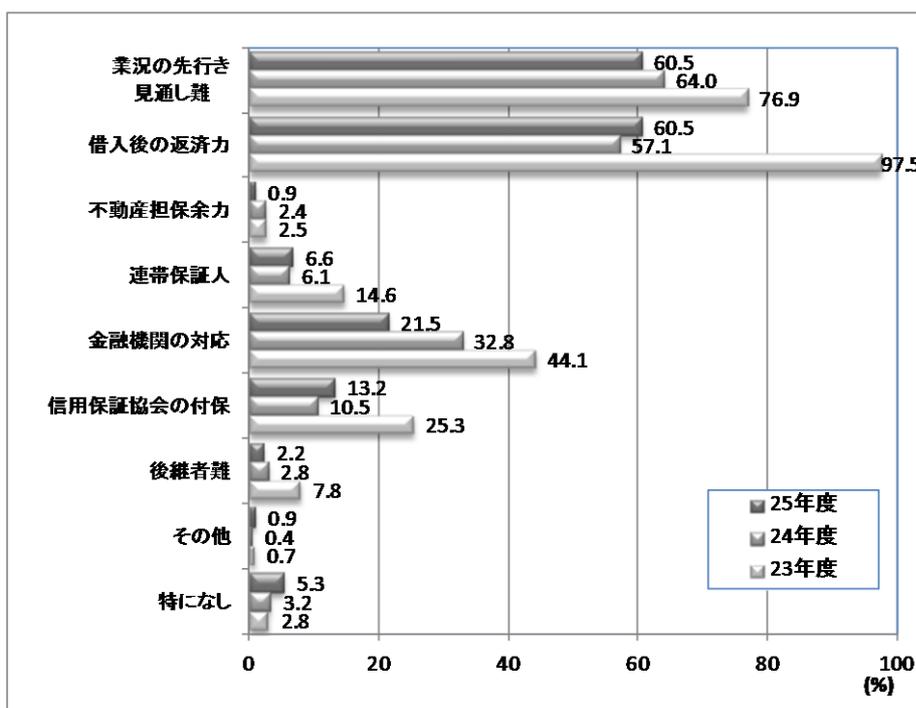
### (3) 借入時の重視条件（2つの複数回答）

前回調査と比べ、直接条件の「金利が低い」が12.4ポイント増加し、間接条件の「日頃のつきあい」「経営上の相談指導が得られる」は共に減少した。



### (4) 借入を考える場合、何が懸念されるか（2つの複数回答）

「業況の先行き見通し難」は前回調査から減少して60.5%となった。次いで「借入後の返済力」は3.4ポイント増加し60.5%となる。「金融機関の対応」は11.3ポイント減少し、「信用保証協会の付保」は2.7ポイント増加した。「後継者難」は3年続いて減少した。

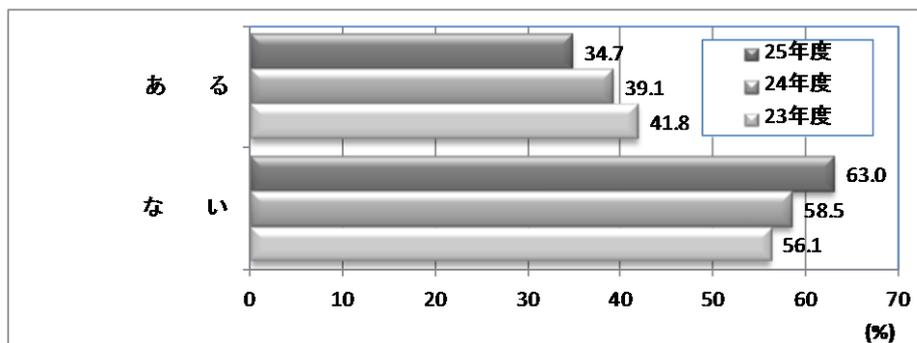


## 5 融資制度 等

### (1) 国・県・市町村の融資制度の過去1年以内の利用状況

前回調査に比べ、「利用がある」割合は4.4ポイント減少しており、「ない」は4.5ポイント増加した。

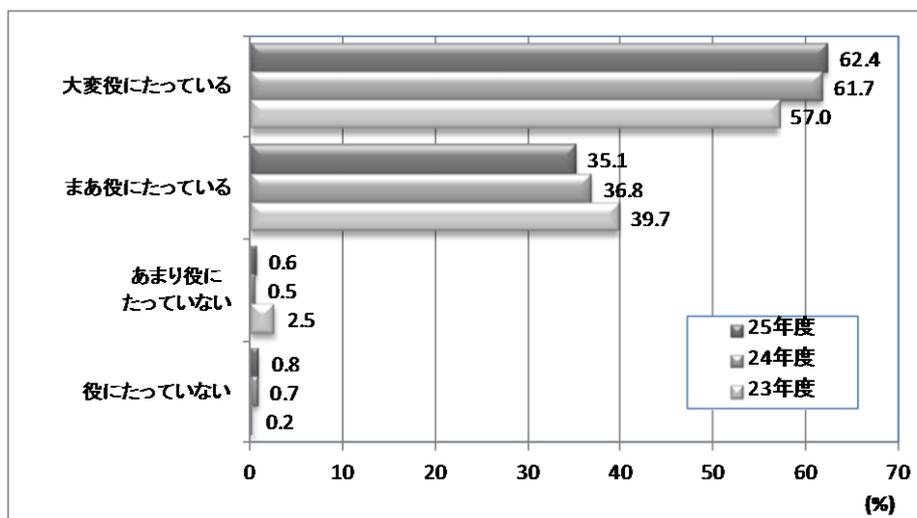
「利用がある」を業種別に見ると、製造業、建設業、運輸業の順で高い。一方で従業員の規模別では6～10人、16～20人の順で高かった。



### (2) 国や県、市町村の融資制度は経営(資金調達)の役に立っていますか。

経営に役立っていると回答した企業は、「大変役にたっている」「まあ役にたっている」を合わせて97.5%を占めている。

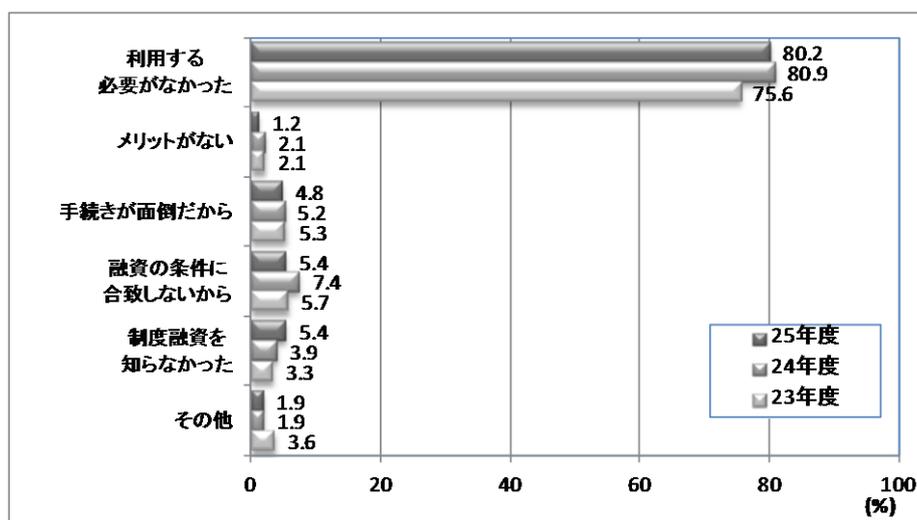
「あまり役にたっていない」「役にたっていない」は合わせて1.4%に止まった。



### (3) 国や県、市町村の融資制度を利用しなかった理由

前回調査に比べ、理由の大半を占める「利用する必要がなかった」割合が0.7ポイント減少したが80.2%と高水準だった。また「融資条件合致せず」「手続きが面倒だから」は減少し、「制度融資を知らなかった」は前回調査に比べて微増している。

その他の利用しなかった理由には、借入残高が多いため、無理とあって借入しない、これ以上融資を受けないで身の丈にあった企業活動をする、などの意見があった。



### (4) 国(政府系金融機関)、県、市町村制度融資について、寄せられた意見

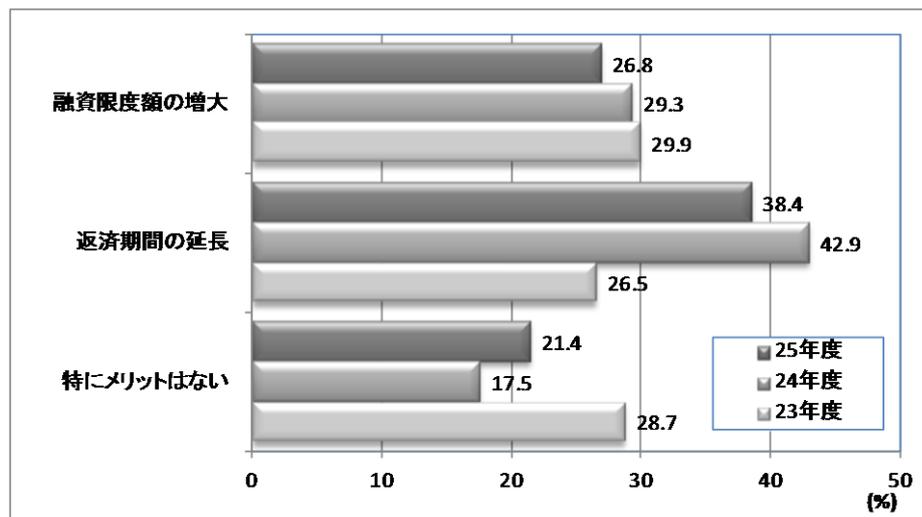
全てを記載した。

- ・金利を安くしてほしい。(複数回答)。
- ・融資条件の緩和。
- ・とにかく簡単に(複数回答)。
- ・金利を安くし、10年払いとか長くしてほしい(複数回答)。
- ・提出資料の簡素化。
- ・無担保、無保証の枠を拡大してほしい。
- ・長期借入金の年間返済額の1/2の再融資制度を希望。
- ・制度融資をもっと増やし、楽に借入出来るように。
- ・中小企業にあてはまる融資メニューの拡大。
- ・低利のカードローンタイプがあれば。
- ・バランスシートや業績を勘案して利率を変動してほしい。
- ・申込、決定、実行まで短期間で実行してほしい。
- ・借入金の一括化をやすくしてほしい。
- ・金融機関全体の借入をまとめて長期化していただければ、資金繰りが楽になる。
- ・条件変更を簡単に、返済期間を長くしてほしい。
- ・もっとPRしてほしい。
- ・大変助かりました(複数回答)。
- ・型にはまり過ぎ。タイミングが変われば、資金は使えない。
- ・起業する人にはいいが、2代目には厳しい。

- ・どのような時にどの制度が適用されるのかよくわからず、民間機関から聞いている。
- ・小規模企業を支援していただければ有難い。借入条件をゆるくしてほしい。
- ・苦しい時に借りたいのに、業績悪化でことわれ借入できない。
- ・信用保証協会が査定を行うので銀行は協会のいいなりになっている。

(5) マル経融資(日本政策金融公庫の公的融資制度)は、21年4月から融資限度額が1000万円から1500万円へ引き上げ、返済期間等が拡充されておりますが、どこがメリットになりますか。

「返済期間の延長」、「融資限度額の増大」とも減少した。定着化が窺える。



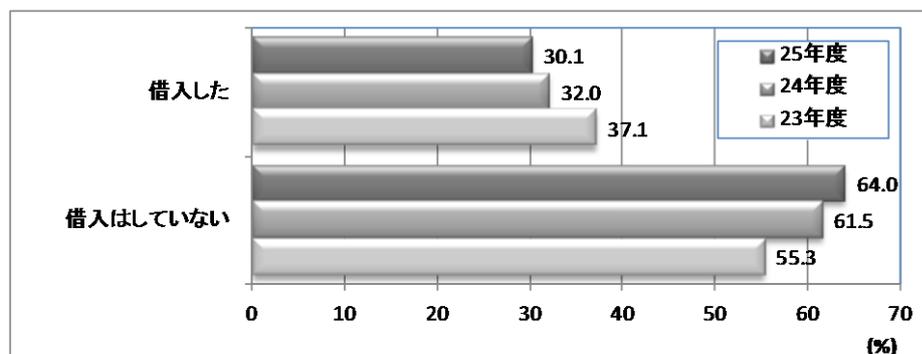
## 6 最近の諸制度についておたずねいたします。

(1) 信用保証協会についておたずねします。

ア、最近1年間に信用保証協会の保証付で借入をされましたか。

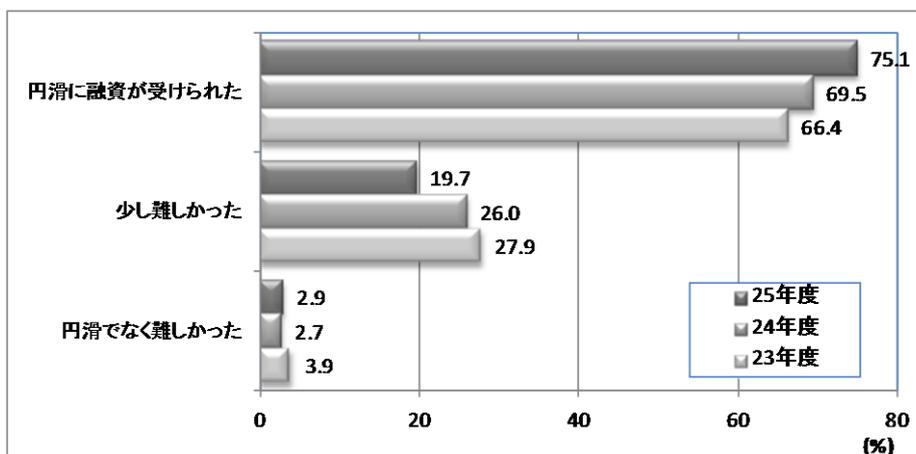
最近1年間に保証付で借入をした企業は30.1%と前年比較で1.9ポイント減少した。

借入した業種では、運輸業、建設業、製造業の順で割合が高い。



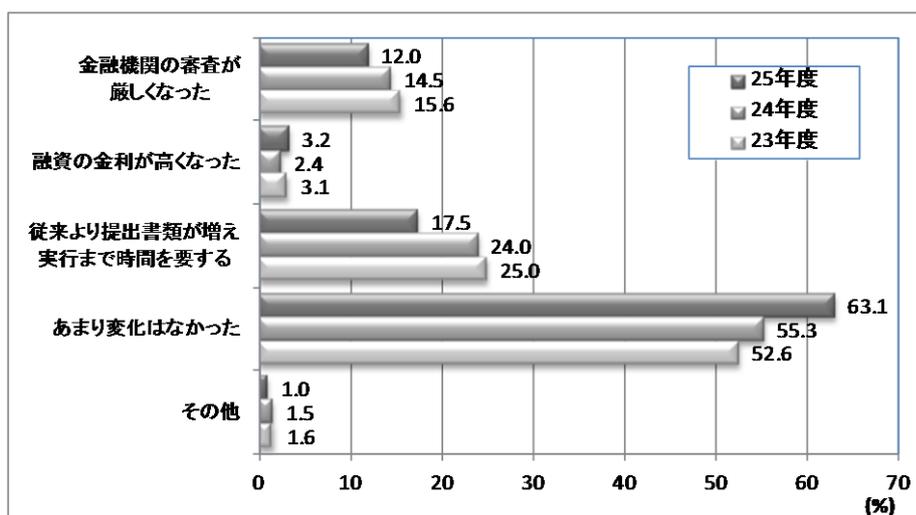
イ、円滑に保証手続きが進みましたか。

「円滑に融資が受けられた」と回答した企業は75.1%と前年比較で5.6ポイント増加した。一方「少し難しかった」「円滑でなく難しかった」は前年比較で6.1ポイント減少している。



ウ、金融機関の態度にどのような変化がありましたか。

「審査が厳しくなった」「金利が高くなった」「提出書類が増え、時間を要するようになった」は3項目の合計で32.7%と前回比較で8.2ポイント減少し、金融機関の融資態度に変化があった割合が減った。一方で「あまり変化はなかった」は7.8ポイント増加した。



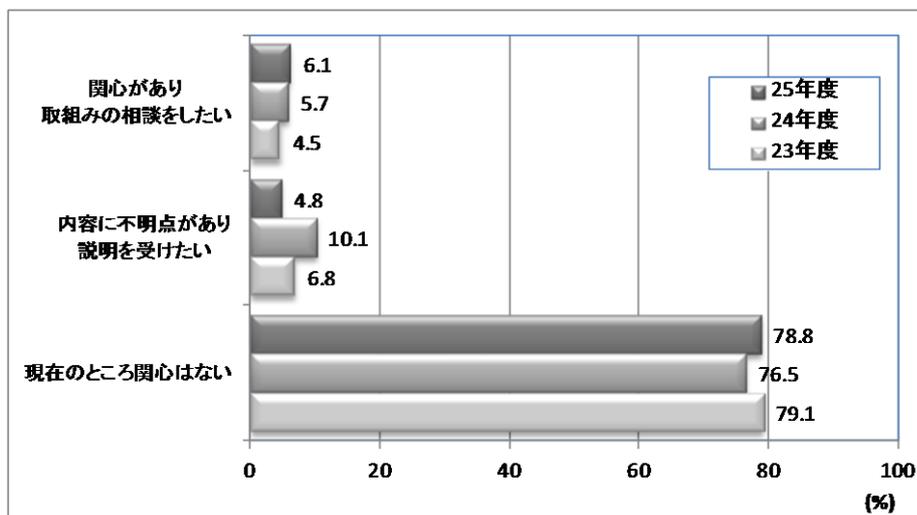
(2) 信用保証制度について、ご意見があれば自由にご記入ください。

全てを記載した。

- ・安心、と思っている。
- ・この制度があれば銀行はいらない。
- ・銀行は保証協会を向いて仕事をしている。
- ・保証人が不足のおり助かっている。：複数回答
- ・銀行との連動で使い勝手はいい。
- ・NPO法人にも保証して欲しい。
- ・個人事業主にもっと保証してほしい。銀行が、保証協会がダメと言っている。
- ・保証料が高すぎる。：複数回答
- ・低金利なのに保証料がつくと結構高くなる。
- ・保証料が高い。リスクにより保証料が決まるのはわかるが、返済期間の延長、借り換え、条件変更を考えても、金利が上がり実行できない。
- ・金融機関によって保証料が違うように思う。一部の銀行や信用金庫では保証料に上乗せした額を借入側から取っているところもある、と聞きました。
- ・高額保証料をとるのだから、完済したら少しでも返金して欲しい。
- ・保証料が高い。県職員の横滑りをなくし、退職金等を安くし全体の費用を軽減すべき。
- ・銀行のリスク回避の為の保証料を、なぜ借用する側が支払わねばならないか。
- ・返済期間を長くしてほしい。
- ・安い金利で拡充してほしい。
- ・借入必要時、前年比売上が減少でないと条件の良い融資制度がなく、都合が悪い。
- ・次の借入まで6カ月あけるのはおかしい。借入を抑えようとしているが、必要になれば借入出来るようにしてほしい。
- ・保証協会を通して借入しているのに、銀行はなぜ保証人をとるのか。ダブルでとっているのではないか。
- ・昔は早くてよかった。
- ・国、県、市の借入枠はいくらあるのか。
- ・どのくらいの借入まで保証してもらえるのか。
- ・保証限度額の拡大を望む
- ・査定が硬直化している。
- ・借入額が大きくないのがいいと思う。
- ・手続きをもっと簡素化してほしい。
- ・新規に融資を受けたが申し込みの手間がかかりすぎて不満。銀行への協力依頼も困難。
- ・審査が遅い。
- ・無担保枠を大きくしてほしい。

(3) 「ビジネス創造支援事業」の専門家派遣について

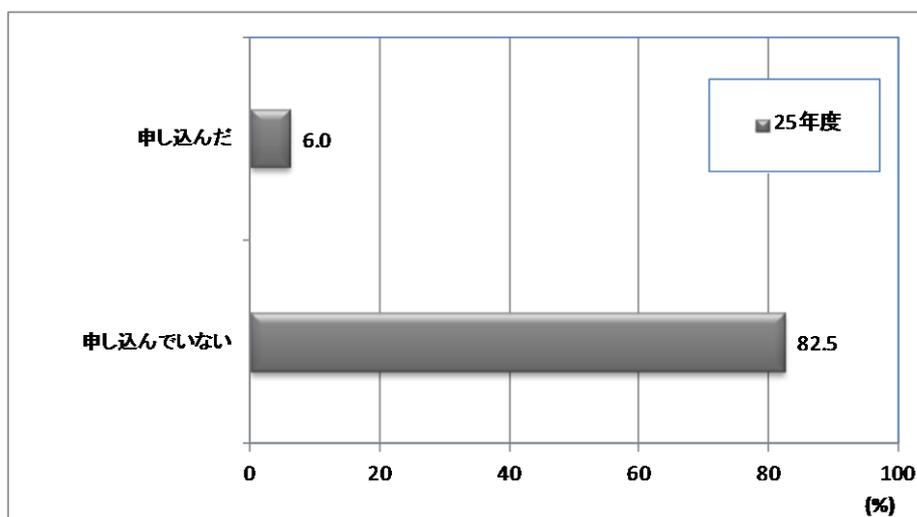
「相談したい」「説明を受けたい」は10.9%と前回比較で4.9ポイント減少した。(注、23年度・24年度は中小企業応援センター事業に対する回答。)



(4) 金融円滑化法終了後のことについておたずねします。

ア、円滑化法終了後の融資状況についておたずねします。

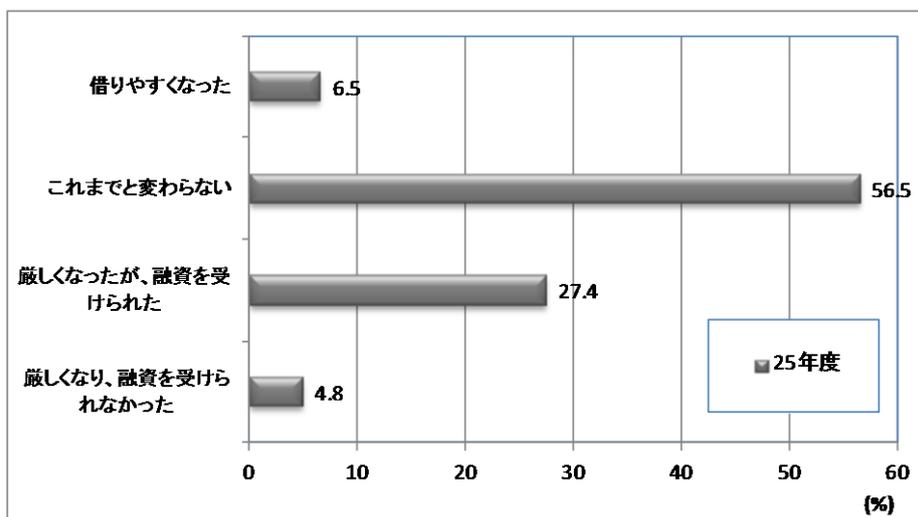
「貸付条件等の変更や新規融資を申し込んだ」は6.0%、「申し込んでいない」は82.5%だった。



イ、金融機関の審査についておたずねします。

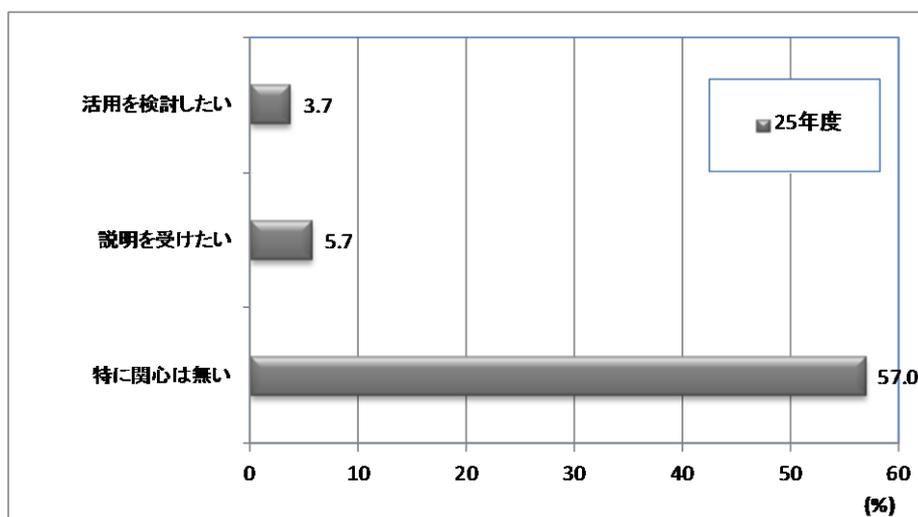
「借りやすくなった」と「これまでと変わらない」「厳しくなったが、融資を受けられた」の合計は90.4%だった。

「融資を受けられなかった」は4.8%で業種別では建設業、製造業が多かった。



ウ、経営改善計画書策定の場合の支援補助金制度についておたずねします。

「活用を検討したい」と「説明を受けたい」は合計で9.4%で、人員規模別では、11～15人、16～20人、21人以上の順に高かった。



(5) 商工会に期待する金融円滑化支援策等について、ご意見があれば自由にご記入ください。

全てを記載した。

- ・商工会の職員の方にはいつもアドバイスをもらっています。有難うございます。
- ・今も、今後も活用したいので、現制度の確保を願う。

- ・地域商業の発展のため、金融指導をこれからも望む。
- ・身近な頼りがいのある組織であり続けてほしい。
- ・中小企業の経営には欠かせないパートナー。
- ・経営のパートナーとして、情報提供をよろしく。
- ・金融に関する情報提供を今後も継続してほしい。
- ・地元の相談相手として、これからも支援いただきたい。
- ・商工会を通して有利なものがあれば相談したい。
- ・いろいろ、相談を受けたい。
- ・何でも簡単に説明してほしい。理解する時間がない。なんでこんなに難しくするのか。
- ・専門家しか理解できないものになっている。
- ・金融より人材を育てる支援策（スタッフ接客研修など）がほしい。
- ・金融支援・指導につき引き続きお願いしたい。
- ・いい販促方法をお願いしたい。
- ・説明等は敏速に対応してほしい。
- ・パンフレット等を出してほしい(定期的に分かりやすいもの)。
- ・有利な借入金の情報をPRしてほしい。
- ・金融情報に限らず有効な情報提供を望む。
- ・借入金の本数が多いので、まとめて少額返済にしたい。
- ・提出書類はなるべく少なくし、審査を簡単にして借りやすくしてほしい。
- ・商工会と日本政策金融公庫、銀行の連携した指導を望みます。
- ・小口の借入に有効な手段を教えてください。
- ・銀行を複数利用しているが、一本化できるようにアドバイスしてほしい。
- ・新規や借り換えのタイミングやメリットを調べて有効な提案をしてほしい。
- ・楽に融資してほしい。

以 上